



外国人の目で課題探る

県、次期総合計画策定向け 県南在住5人と意見交換

県は9日、次期総合計画(2019〜28年度)策定に向け、県南地方に住む外国人との意見交換会を奥州市水沢区のメイプル地下多目的ホールで開いた。4カ国1地域の出身者を迎えて、国際リニアコライダー(ILC)誘致も見据え、多文化共生社会の実現のため、これからの10年に必要な取り組みを考えた。

外国人目線で県の課題を抽出し、今後の施策推進の参考にしようという狙い。県担当者と同市在住の朴宣姫さん(韓国出身)、ビル・ルイスさん(米国出身)、吉田蕙秋

さん(台湾出身)、平泉町在住の岩淵静華さん(中国出身)、一関市在住の村上アミさん(フィリピン出身)が参加した。本県の評価と多文化共生社会の実現に必要な方策、次期総合計画のキーワード「幸福」に着目し

た外国人は本県の印象を「自然豊か(一人が優しい)とした一方、生活上の言葉の問題や交通の不便さなどの課題も挙げた。ILCサポーター委員会のビルさんは「子供が通う学校はポロポロでは駄目。いずれはインターナショナルスクールが必要

になるかも」と指摘。朴さんは「外国人と日本人が自然に交流できる場が多くあればいい。言葉が通じなくても、笑顔で接するだけで民度や幸福感を高めてくれるはず」と語った。

藤田康幸県政策地域部長は「地域に密着したサポーターの必要性を改めて

感じた。外国人の方々が暮らしやすい体制づくりを進めていく必要がある」と意見を参考にしてい

て意見交換した。参加し